

おおさか自治体学校

1月20日午前から大阪グリーン会館で行われた「おおさか自治体学校2018」に初参加した。その前に会場近くの大阪天満宮と繁盛亭に久しぶりに立ち寄った。繁盛亭は昼に通ったら、長い行列ができ、よく繁盛していた。



学校のテーマは「大阪から政治を切り拓く」。森裕之校長の開校あいさつに続き、第1部パネルディスカッション。富田宏治・関西学院大教授、桜田照雄・阪南大教授、中野雄司・大阪を知り・考える市民の会世話人、藤永延代・大阪市民ネットワーク代表が、大阪の政治と経済について語った。「維新政治」なるもの、大阪の政治経済の現実を学ぶことができた。質疑の時間に、思い切って挙手をして、38年ぶりの大阪の感想を述べ、なぜ酷い政治が続くのか、「中間層」への期待などを述べた。あとから参加者から、大阪人はこんな政治に慣れてしまっており、新鮮な問題提起だったと言われて、なんだか嬉しくなった。

第2部は「ロールプレイ方式」による全体会。校長のアメリカ仕込みの本邦初「公演」。ロールプレイとは、互いに違う立場にたって発言し理解を深める方式という。はじめて観劇して感激した。久しぶりに、第1部に続いて、よく学び、今度はよく笑った。



テーマは「カジノ誘致」と「公共施設の再編」。カジノ誘致では、とあるバーのママさんとパチンコ愛好者との会話から始まる。政治家・学者や悪徳弁護士などの発言からギャンブル依存症、カジノ万博の実像が浮き彫りにされる。ここで突然、愛知万博について発言を求められる。当初の会場構想は、新住宅市街地開発事業、いわゆる新住事業とセットだったので国内外から批判された。万博は新住事業と「心中」するのかと。大阪万博はカジノと心中するのだろうか。時間があれば大阪万博は火事場泥棒ならぬ、「カジノ泥棒」だとも言うつもりだった。



「公共施設の再編」では、時間があれば次のことを発言したかった。愛知県西尾市は幡豆郡3町と合併したが、PFI方式で公共施設再編を1社に任せることに。とりわけ旧幡豆郡の住民から「そんなはずではなかった」と批判の声があがった。強引に推進した市長は選挙で落選。新しい市長のもとで、PFI方式の見直しが行われている。

とにかく多くのことを学び、久しぶりによく笑った5時間であった。大阪自治体問題研究所に集う大勢の人とも交流でき、じつに有意義な一日となった。

(2018年1月22日)